

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015.6.19		
所属学部	教育学部		
所属学科・専攻	中学校教員養成課程英語科教育分野	学年	4

1. 留学先について

留学先大学名	タンペレ大学		
留学先所属学部等	教育学部		
留学期間	出発日 8月22日	入学日 8月27日	修了日 特になし 帰国日 5月20日
住居	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input checked="" type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	通学時間	15分程度	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	バス	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input checked="" type="checkbox"/> 共同スペース有 (キッチン、トイレ、バスルーム) <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 70 %	学食 25 %	外食 5 % その他 () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)	AIU保険 81Wタイプ	
	大学指定の保険(名称)	<input type="checkbox"/> 強制加入	
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車) 成田 ⇄ コペンハーゲン(飛行機) ⇄ ヘルシンキ(飛行機) ⇄タンペレ(行き:車、帰り:電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	130万	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input checked="" type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円 <input type="checkbox"/> その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	130万	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円 <input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input type="checkbox"/> その他名称()		円	
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 千葉大学助成金	285,000	円	<input type="checkbox"/> その他()	円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	5万	円	<input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード	円 <input type="checkbox"/> その他()
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金	<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング	<input type="checkbox"/> その他()		

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	現金
住居にかかった費用	現金
その他	基本的にクレジットカードで

2-3. 内訳 *外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	円		231,980	円
海外旅行保険	円		180,220	円
OSSMA	円		29,160	円
査証・在留許可証	円		40,700	円
住居	ユーロ	2,200	320,000	円
食費	ユーロ	1,400	200,000	円
通学に要する交通費	ユーロ	260	38,000	円
教科書、教材費	ユーロ	24	3,000	円
その他大学に支払った経費	ユーロ	100	15,000	円
光熱費	ユーロ	住居に含む	左に同じ	円
その他 (旅行費)	ユーロ	1,000	150,000	円
その他 (交際費)	ユーロ	570	80,000	円
その他 (日用品)	ユーロ	1,000	150,000	円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面 *必ず留学先の成績証明書と単位の互換認定が反映された千葉大学成績証明書を提出すること。

履修科目名 *全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類ex.正規、聴講	単位数	単位認定の有無
1 Orientation Course	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
2 Elementary Course I	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
3 Identity and Lifecourse – Lectures and reading groups	正規	5	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
4 Cultural Conversation	正規	1	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
5 Struggles on Education – Lectures	正規	5	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 Elementary Course II	正規	3	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
7 Elementary Course III	正規	4	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
8 Introduction to Academic English / EDU	正規	4	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
9 Practical Observation of Finnish School System for Incoming	正規	5	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
10 Optional course:Quality in Education, Training and Learning	正規	5	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
11 Introduction to the Main Varieties of English – Introduction	聴講	3	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
12 Introduction to the Main Varieties of English – Introduction	正規	2	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
13 Cultural Conversation	聴講	1	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
14			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
15			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
16			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
17			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
18			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
19			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
20			<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

*登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

千葉大学のような「学期はじめのオリエンテーションの週」というものは基本的に無いため、事前の履修登録期間に自分たちで大学のホームページをチェックし、取りたい授業を決め、履修登録希望をする必要があります。履修登録システムは大学のホームページからアクセスできるようになっており、学外からでも自分のIDとパスワードでログインして行うことができます。先生によっては「もうすぐ履修登録期間だよ」と教えてくださる先生もいますが、基本的には自分で管理しなければならないため、登録をし忘れるようなことにならないため、一層の注意が必要でした。また、履修人数に限りがある授業の場合、交換留学ではなくdegreeで来ている学生に履修権が優先されると、履修登録希望が早かった人から順番に履修許可がもらえる、といった面もあるため、登録期間に行ったとはいえ安心はできませんでした。また、フィンランドという国柄、基本的な言語はフィンランド語であるため、履修が可能な授業には限りがありました。

3-2. 授業内容、方法に関して

講義形式のものはほとんどありませんでした。講義の場合も先生が一方的に話すという感じではなく、学習者も自由に質問をしたり反論をしたりしており、学習者からのコメントがない場合も教授が積極的に学習者に質問を投げかけており、「参加型」という印象を強く受けました。多くの場合、特に僕の専門の教育の授業では、ディスカッション形式の授業や、プレゼンテーションの授業がほとんどでした。教授はあくまでもサポートをするというスタンスで、中心は学習者になっていました。日本の授業と比べると、先生の立つ教壇に向かって学習者が座る、というスタイルよりも、会議室のような形で学習者同士が顔を合わせるような机の配置になっていることが多かったように思います。

3-3. 語学力について

自分の語学力に関しては、自信はありませんでした。この交換留学が自分にとっての初海外であったということもあり、海外生活のイメージもあまり湧かないままの渡航となりました。結果的には、現地の人たちも外国語として英語を学んでいる第二言語話者であったということから、「早すぎてまったく聞き取れない」ということはありませんでした。しかし、中にはネイティブスピーカーのように堪能な人々も多く、そういった人たちの英語を理解するのは難しかったです。しかし、聞き取れなかったときは恥ずかしがらずに聞き返したり、理解ができていないと示すことで、ゆっくり話してくれたり、別の語で言い換えてくれたりしていたので、そこまでの悩みにはなりません。ただ、自分の言いたいことをどう英語で表現すればよいか分からない時に、別の語で表現するために頭の中で考えるのに時間がかかり、流暢に会話を続けられないことは多くありました。また、母語はフィンランド語の国なので、自分自身フィンランド語を勉強し、スーパーでの買い物などのときなど、使える場面ではフィンランド語を使うようにしていました。

3-5. その他

日本よりも学生主体といった傾向が強いため、やりたいことがある学生への機会は可能な限り実現するよう先生方も協力して下さりますが、逆にやりたいことの見つからない学生は授業のためだけに大学に来て、あとは自分の家にいる、といった印象を受けました。僕は個人的にも現地の学校を観察させていただきたいと考えていたり、自分の興味のある分野を研究している学生や教授の話をお聞きしたいと考えていたので、そういった機会を頂くことができましたが、そういったやりたいことがない場合は、自分の家でただ過ごす、という状況にもなりかねないのでは、という風にも感じました。

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

基本的にはTOASという大学と提携している不動産会社のようなところが紹介してくれる住居に住むことになります。契約の前に実際の部屋を自分の目で見ることはさすがにできませんが、事前の住居のオファーのメールで家賃を含め住所や部屋のタイプを教えてもらえるため、大体のイメージは掴むことができます。また、TOASのホームページから何枚かの写真を見ることもできます。僕のアパートはほぼ留学生向けのもので、4人でのシェアタイプでした。一人一人が個別の鍵付きの寝室を持っており、キッチン、トイレ、シャワーなどが共用でした。個別の部屋があったため自分ひとりの時間も確保できますし、シェアスペースでルームメイトと話すこともできたため、良い場所だったと思います。立地も大学からバスで15分程度だったため、通学もそこまで大変ではありませんでした。シェア自体も基本的に困ることはありませんでしたが、価値観の違い等はやはりあったため、掃除に対する考え方などの違いで戸惑うことはありました。TOASからオファーされた物件が気に入らない場合は断って次のオファーを待つことも可能ではありますが、その場合他の学生を1周してから次のオファーをもらう形になるので、場合によっては渡航までに住居を確保できない、といったケースもあるようです。そのため、僕はチューターから「とりあえずオファーされた物件で契約して住居を確保しておき、気に入らなければその時にオフィスに行って引っ越し先を探したほうが良い」と言われました。

4-2. 食生活について

普段は大学に行くときは昼食は学食を利用していました。フィンランドは物価が高いですが、学食は良心的で2.6ユーロで食べることができたため、あまり野菜を買っていなかった僕にとっては貴重な栄養バランスを整える場でもありました。味もおいしかったです。昼食以外はほぼ自炊していました。調理具は学生組合から安価でレンタルすることができたようですが(それも保険のようなもので、調理具を返す時にお金も返してもらえるようです)、僕はそれを忘れていたため、自分でIKEAで買ってしまいました。調理具に関しては帰国時の処分に困りますが、買う場合も大体のものは大学の近くで手に入ります。食材も、大学近くにアジアマーケットがあり、そこでいろいろな食材を手に入れることができました。日本と比べるとやはり割高ではありますが、日本米や調味料、インスタント麺なども入手できます。日本食以外の食材に関しては、スーパーマーケットは割とどこにでもあるので、大丈夫でした。価格はフィンランドの方が基本的に高いですが、野菜などは量り売りのところもあるため、その時に使う分だけを買うことができる面では、良かったです。アルコールはスーパーでは5%以下のものしか取り扱うことができず、また、買うことができるのは21時まで、といった日本にはない決まりもありました。5%以上のアルコールはAlkoという店が独占的に販売しています。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

アパートや大学など、生活の中心になる場所にはwifiへのアクセスが十分に整っています。街中でも、多くの飲食店やショッピングモールにはfree wifiがありました。携帯電話は本機の値段自体はそこそこ高いですが、SIMフリーのため、一度買ってしまえば他の国に旅行に行くときも使えて便利だと思います。SIMの会社は、僕はDNAという会社のものとSaunalahtiという会社のものを使っていました。通話機能のためには電話番号を取得しなければいけないため、その点は留学生には少し難しいかもしれませんが、僕はチューターが手伝ってくれました。データ通信は~か月パックのようなプランがあり、僕はそれを利用していました。通信量の多くないテキストメッセージなどでの利用であれば、割安のプランがあります。

4-4. 服装について

室内は集中管理で常にほぼ一定の気温が保たれているため、真冬でも室内で寒いと感じることはなく、むしろ着込んでいると暑いくらいでした。僕のいた街はフィンランドの中ではそこまで寒い地域ではなかったため、寒さに強い人であれば日本用の防寒具でもなんとかなるのでは、と思いました。僕は本格的に冬になる前に厚いコートを買ってしまったのでそれを使っていましたが、別に無くてもどうにかなったと思います。それよりも雪で地面が滑りやすくなるので、靴に気を付けなければなりませんでした。

4-5. 健康管理について

幸運にも風邪などもほとんど引くことなく、健康に過ごすことができたため、病院などを利用する機会はありませんでした。ただ、日照時間が日本とは違い、夏は日が沈んでいる時間がほとんどなく、逆に冬は日が少ししか昇らない状態だったので、生活リズムを整えるのは大変でした。日光の摂取量が少ないことから、ビタミンが十分にとれないらしく、サプリメントは一応買って飲んでいました。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

大きな事故や事件に巻き込まれることはなかったため、保険やOSSMAを直接利用することはありませんでした。しかし、海外情勢など、知っておくべきことはOSSMAの注意勧告等をチェックするようにしていました。

4-7. 課外活動について

授業の一環として大学付属のprimary schoolとsecondary schoolで授業見学をさせていただきましたが、それ以外にも個人的にコンタクトを取ってcomprehensive schoolを訪問させていただいたりしました。その中で、何人かの先生や学生にお話を伺うことができました。それ以外にも、僕は機会がなく参加できませんでしたが、DEMOLAという組織が学生と企業を繋いで共同でプロジェクトをつくるといった活動も行われていました。

また、学生組合のような団体が頻繁にイベントを企画してfacebookに投稿していたので、そういった場で輪を広げることもできました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外でのコミュニティという点ではあまり盛んではなかったように思います。ただ、僕の住んでいたタンペレにはタンペレ大学のほかにタンペレ工科大学、タンペレ応用科学大学があったため、他大学のコミュニティに参加したりはしました。具体的には、他大学で行われたフードフェスティバルに参加したり、バスケットボールの練習に参加させてもらったりしました。

また、kawaii Japaniという日本語グループがあり、そこでは日本人学生と日本に興味があるフィンランド人学生及び他国からの学生が定期的にミーティングを行い興味のあるものについて話したり、出かけたりしていました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

総合風邪薬などの医薬品は現地のものが体に合うかわからなかったため、持っていきました。また、セーターなどの重ね着用の衣類は持って行ったほうがいいと思います。現地で買うこともできますが、余計な出費は抑えたほうがいいと思います。

食料品の面では、自分は持って行かなかったのですが、カレーのルーなどがあると便利だと思います。一応カレーのルーはアジアマーケットで買うことができますが、高いです。クリームシチューのルーなどは少なくとも僕は見かけなかったため、食べたい方は持って行くことをおすすめします。意外と役立ったのが「味の素鶏がらスープの素」でした。普通に溶き卵とお湯でスープを作ってもおいしいですし、スープパスタなどの味付けにも使っていました。

個人的に持って行けばよかったと思うのは、すきバサミです。美容院に行くのは高いと思ってしまったので僕は自分で髪を切ることにしたのですが、現地のすきバサミは少し高かったです。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

現地の学生と教育について教えあうような授業があるかと思い、日本の中学校や高校の教科書を持って行ったのですが、そういった機会はなく、使わないままでした。というのも、言語面の問題で、現地の学生がとっている授業と同じ授業を履修することはあまりできなかったため、個人的なかかわり以外では現地の学生で自分の学んでいる分野と同じものを勉強している人々と話す機会はあまり多くありませんでした。

また、日本では冬に大体マスクをいつも付けていたので、その感覚で徳用のマスクを大量に持って行ったのですが、向こうでは「マスク＝重病」のようなイメージがあるらしく、冬でも付けている人はいませんでした。そのため僕は結局持って行ったのにマスクを使うことはありませんでした。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

フィンランド人は比較的性格の面で日本人に共通する部分があると思いました。例えば、初対面ではあまり話さないのですが、仲良くなるにつれてたくさん話してくれるようになったり、お酒を飲み始めると急に話すようになったり、という人が多かったです。また、困っていると声をかけてきてくれ助けてもらったこともありますし、一般的にとっても親切な人々だと思います。

ルームメイトは清潔感に関する価値観の違いから、理解が難しい場面もありましたが、基本的にはいい人たちでした。中心街のアパートに住んでいる友だちの中にはルームメイトがうるさく勉強に集中できない、といった人もいましたが、僕のアパートはいい意味で中心街からは少し離れていたため、騒音に悩まされることはほとんどありませんでした。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

・periodIとIIの間の1週間程度の秋休みのような期間にエストニアの首都、タリンに行きました。フィンランドの首都ヘルシンキからフェリーで2時間半程度でタリンまでは行くことができ、タリンで1泊しました。大体100ユーロくらいかかったと思います。

・年末年始を10日間ギリシャで過ごしました。ヘルシンキまでバスで移動し、そこからウクライナ経由でアテネに飛行機で行きました。アテネでは建造物や博物館を見て、宿泊はコストを抑えるためドームタイプのホステルを利用しました。旅の後半はサントリーニ島というエーゲ海の島でのんびり過ごしました。合計すると650ユーロほどかかったと思います。

その他

休日は基本的にアパートで洗濯や掃除などの家事、また授業の課題に取り組んでいました。たまに友だちと約束をして鍋パーティーをしたり、スポーツをしたりしていました。

5. 報告

5-2. 留学先大学について

タンペレ大学はフィンランド第三の都市、タンペレにある大学で、同じ街にタンペレ工科大学、タンペレ応用科学大学が同様にあります。タンペレは工業都市であるため、フィンランドの美しい自然と歴史ある建造物が近代的な建物と共存している、大学都市といえる場所だと思います。タンペレ大学は9つの学部(school)から成る総合大学で、ヘルシンキにあった前身のものも含めると、約90年の歴史があります。

5-3. 留学中の様子

夏の日照時間は日本よりもかなり長く、逆に冬の日照時間は日本よりもかなり短いため、生活リズムを整えるのが難しかったです。具体的には、向こうでは朝に弱くなり、夜に遅くまで起きていようになりました。フィンランドは日本と比べると娯楽や出かけるスポットは多くなく、代わりに森や湖といった自然にあふれた場所なので、時間がゆっくりと過ぎていく印象を強く受けました。また、これは欧米諸国に一般に言えることかと思いますが、学生主体で動くことが多くあります。そのため、逆に大学側から与えられるものは多くなく、学生が主体的に動こうとしなければ、学べるものも多くはない、と感じました。友人関係で困ることはありませんでした。ほかの国からの留学生も現地のフィンランド人の学生もやさしく、言語面でも自分と同じように英語を外国語として学んでいることから、学業の面でも大きな壁を感じることはあまりありませんでした。どうしてもフィンランド語での授業のほうが多いため、英語使用の留学生という立場では履修することのできる授業数に限りがありました。豊かな自然の中で英語だけでなくほかの言語にも触れながら、自分自身を見つめなおす機会を得ることができたと思います。

5-4. 留学希望者へのアドバイス

コミュニケーションの面では、基本的にはほとんどの人々が英語を話すことができるため、問題ないと思います。また、その英語も上手ですが、ネイティブスピーカーほどではないことが多いので、あまり気負わずに対等な雰囲気ですることができると思います。どちらにせよコミュニケーションは英語で取ることになるので、英語力は付くと思いますし、やる気があればフィンランド語をはじめとする他の言語も学ぶことができます。いい意味でも悪い意味でも学生が主体なので、がんばろうという気持ちがあればいろいろなことにチャレンジさせていただくことができると思います。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

今回の約1年間の派遣留学を経て、成長できたと感じています。具体的には、自らが知らない土地でマイノリティとして生活する中で、日本で生活している際には気づいていなかったマイノリティの人々の抱える問題の一部にも気づくことができましたし、色々な背景を持つ人々と関わる中で見識を広げることができたと感じています。また、留学に行くことでしか得られなかった出会いがあり、これからも連絡を取っていきたい友人もできました。留学以前は学部卒業後はそのまま働き始めたいと考えていましたが、留学期間中に様々な人々に会い、話を聞き、いまは働き始める前にもう少し深い勉強をしたいと思っています。また、以前は流暢に英語を話せないことに対して恥ずかしさがありました。ゆっくりでも自信を持って自分の考えを話そうとする人に多く出会い、その面での考え方が変わりました。もちろん流暢に話せたほうが良いとは思いますが、大事なことはコミュニケーションをとること・とろうとすることであり、ゆっくりでも自分のことを相手に伝えようとする事ができる、英語に対して前向きな子どもたちを育てたいと考えています。留学をするにあたり千葉大学での単位履修計画がずれることもあり、その点での心配がありましたが、教授も親身に相談に乗ってくださり、1,2年次に計画的に履修していたこともあり、調整することができました。僕は専攻上あまり就職活動の影響を受けませんでした。ほかの日本人学生は就活に多少遅れる形での帰国にはなるため、その点では大変そうな印象を受けました。また、ヨーロッパの学生たちと比べると、日本人学生は経済面での政府からのサポートが少ないため、親に頼らざるを得ない状況が現実でした。

6-5. その他の質問、意見、相談などあれば自由に書いてください。

難しいこととは思いますが、長期の留学となると経済面での家庭での負担がどうしても大きくなり、それが理由で留学をあきらめる学生も多いと思います。大学から、大きな話になりますが国から、教育に対して十分な援助が頂けると、よりグローバル化・多様化に対応できる人材が育成できると思います。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2015.2作成版